

書簡 大杉栄宛

(一九一六年四月三〇日 一信)

伊藤野枝

青空文庫

宛先 東京市麴町区三番町六四 第一福四萬館ふくしま

発信地 千葉県夷隅郡御宿 上野屋旅館

ゆふべ、つくと直ぐに手紙を書き出しましたけれど、腰が痛んで気が悪いので止めました。つきますと直ぐに雨が降り出して、風がひどいので外には出られません。真暗な風の強いさびしい晩でした。停車場から此処まで歩いてくるうちに、泣きたくなつて仕舞ひました。停車場の直ぐ前ときいてゐましたけれども、少し離れてゐます。海の近くです。かなり広い家です。家のまはりは

あんまり感じがよくありませんが、そんなに悪くもありません。

私の今ある室は一番奥の中二階へやみたいな室です。かけ離れてゐて、宿屋にゐるやうないやな気はしません。そして大変仕事を
するにはいい室ですが、押入れがないので他に移りたいと思つて
ゐます。四畳半ですから本当にいいのですけれども。今朝は私の
気持がすっかりおちついてゐます。汽車の中も随分さびしうござ
いました。千葉からは二人きりになりました。

かうやつて手紙を書いてゐますと、本当に遠くに離れてゐるの
だと云ふ気がします。あなたは昨日別れるときに、ふり返りもし
ないで行つてお仕舞ひになつたのですね。ひどいのね。私はひと
りきりになつてすっかり悄しよげ気てゐます。早くゐらつしやれません

か。それだと私はどうしたらいいのでせう。こんなに遠くに離れてゐる事が、そんなに長く出来るでせうか。お仕事の邪魔はしませんから、早くゐらして下さいね。

こんな事を書いてみますと、また頭が変になつて来ますから、もう止めます。四時間汽車でがまんをすれば来られるのですもの、本当に来て下さいね。五日も六日も私にこんな氣持を続けさせる方は——本当にひどいわ。私はひとりぽちですからね。この手紙だつて今日のうちには着かないと思ひますと、いやになつて仕舞ひます。

「『大杉栄全集』第四卷、大杉栄全集刊行会、一九二六年九月」

青空文庫情報

底本：「定本 伊藤野枝全集 第二卷 評論・随筆・書簡」——
『青鞜』の時代」學藝書林

2000（平成12）年5月31日初版発行

底本の親本：「大杉栄全集 第四卷」大杉栄全集刊行会

1926（大正15）年9月8日

※ルビは新仮名とする底本の扱いにそつて、ルビの拗音、促音は
小書きしました。

入力：酒井裕二

校正：雪森

2016年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

書簡 大杉栄宛

(一九一六年四月三〇日 一信)

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 伊藤野枝

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>